

ワンポイント 愛 その④ 原罪

罪とは的外れ=目的からそれる事 サタンの支配下に落ちた人間

神のみ言葉とサタンの言葉との間で迷っていたエバがついにサタンの方を選びました。それは神を捨てた事です。「必ず死ぬ」と言われた神の言葉を信じないで「決して死なない」と言ったサタンの言葉を信じた事でもありました。エバの勧めに従ったアダムも全くの同罪で神とともに生きる道からそれてサタンの支配下におちたのです。たかが一個の木の実と映りますが、この「実」に問題があったのではなく、「食べる」という行為が、いや「食べよう」と決定した意思が問題だったのです。ただ一本の木の実を神様は禁止しただけでした。その命令を守る事が、この神様の言葉を信じる『信仰』であり、神様の愛に答える《レスポンス=責任》であり、愛をしめす唯一の証しだったのです。

聖書が教えている『罪』とは「目的からそれる=《的外れ》」という意味です。神とともに生きるように造られた人間が、神の言葉を信じないで、その神に従わないなら、それは神と共に生きていない事です。つまり本来の目的からそれた事ですから『罪』なのです。これが《原罪》と言われるものです。この「実」を食べた直後の二人にはっきりと『罪びと』を見る事が出来るのです。そして『罪』の性質はすべての人間の心の中に宿されているものなのです。

罪についての聖書のことば

イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことにあなたがたに告げます。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。(ヨハネ8：34)

悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出てくるからです。(マタイ15：19)

罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。(ローマ6：23)

定期集会

どなたでもおいで下さい

(日) 礼拝と学び 教会学校 夕 拝	10:30~12:10 13:30~14:30 19:30~	(水) 聖書の学びと祈禱会	19:30~
		(金) 聖書の学びと祈禱会	10:00~

チャペル通信

102号

2016年 (福祉特集その4)

特集 田内千鶴子

しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。

ローマ人への手紙6章22節

2016年が始まりました。昨年末、にわかに関国と日本の対話が外相どうして実現し、「慰安婦」問題が政治取引の中で解決した格好になりました。しかし根本的解決にはまだ程遠いように思われます。

日本と韓国の間で友好的な働きをした女性がいました。韓国の孤児を愛し木浦で3000人の孤児を育て、木浦のオモニ(母)と慕われ韓国の文化勲章を日本人として受け、死んだ時には市民葬30000人に見送られて天国に行った田内千鶴子という女性でした。

日本が統治下に置いていた韓国に7歳で渡り、韓国のクリスチャンと結婚して孤児院で音楽教師をしていました。

明治時代の社会福祉に携わったクリスチャンは貴族出身の人たちが多い中で、普通の人間として、上からの視線で接することなく、孤児を愛した一人の女性。しかしその人生の試練は、激動の歴史の流れの中で荒波にもまれ、絶望の淵に幾度と立たされた波乱の人生でしたが、子供を愛す姿勢は固い岩の上にとっかかりと足を置いて生きた勝利の人生でした。その人生の土台について、学びたいと思います。



〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集
発行

日本同盟 子母口キリスト教会
基督教団 e-mail shibokuchi@church.jp
牧師 小岩井 信 http://shibokuchi.church.jp
電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157



夫が帰るまで共生園を守ろうとしてきただけです。私は苦勞はしていません。

苦勞は子供（孤児）達がしてきたのです。

田内千鶴子

共生園につかわされ

千鶴子が18歳の時、朝鮮総督府に勤務していた父親が病死して、母のはるが助産師をしながら千鶴子を女学校に通わせました。20歳の時木浦にある女学校の音楽教師をしていましたが、恩師から「生きがいのある仕事をしてみないか」「この孤児園の子に笑顔を取り戻してください。」と言われました。千鶴子はその頃、教会で奉仕をし始めていたのでこの依頼は感動的でした。訪ねた千鶴子は目を疑いました。施設とは名ばかりで30畳ほどの1部屋に50人のこどもがいて、園長1人で面倒をみているのでした。園長の尹致浩（ユン・チホ）は「乞食大将」と呼ばれていました。ここで彼女は無報酬で歌を教えました。2年ほどして、献身的に働く千鶴子に尹致浩はプロポーズしました。周囲は猛反対でした。そんな中、母は「結婚は人間と人間がするもの、天国では日本人も朝鮮人もありません」といって2人を祝福しました。

2つの戦争が2人を

第2次大戦が終わると、鬱積していた韓国人の感情が爆発、多くの日本人は帰国する中、千鶴子は韓国にとどまりました。すでに2人の子供が与えられ、3人目を宿していたのです。孤児たちを見捨てることなど考えられませんでした。その時村人たちが集まって尹致浩を殺そうとしましたが、子供たちが棒や石を持って、村人と尹致浩の間の盾となりました。

1950年6月15日、朝鮮戦争が勃発し、共産軍が釜山周辺以外韓国全土を制圧しました。木浦にも7月下旬に共産軍が入ってきて、村人たちが共生園の運動場に集められ、人民裁判が始まりました。共産軍はキリスト教と日本人を目のかたきにしていました。

尹致浩は子供たちに食料を与えること、罪のない者は一人も殺さない事を条件に人民委員を引き受けました。最初の仕事は妻千鶴子の裁判でした。尹致浩は千鶴子が周囲の反対を押し切って自分と結婚してくれ孤児達に献身的に尽くしてくれた事を弁論し、最後に彼女を死刑にするなら、その前に私を死刑にしてほしいと締めくくりました。しかしその2か月後にアメリカが参戦して朝鮮戦争が拡大し、共産軍を南部から駆逐しました。共産軍からの解放に市民は安堵しましたが、尹致浩は共産軍に協力したスパイとして逮捕されてしま



いました。2日後に、尹致浩は孤児の食料を調達しに出かけたまま、行方不明になってしまいました。戦争があれば孤児は増加します。共生園を千鶴子は必至で守りました。多くの支援を求めみずばらしい身なりでなりふり構わず働きました。木浦の人々はかつて尹致浩につけた乞食大将のあだ名を、千鶴子につけました。一日に80人の食事を賄うために、千鶴子は名前を韓国名にして、服装も変えました。それ以後は死ぬ間際まで、日本語を語らなかったそうです。

韓国人として文化勲章

1963年に、日本の国民栄誉賞に当たる表彰を受けました。その2年後に、肺ガンを発症しましたが、入院費を共生園の為にと言っ、拒み続けました。いよいよ命が危ない段階になった時、かつての育てた子らが入院費を捧げました。1968年10月31日56歳の誕生記念の礼拝後、その日を待つように、天に凱旋して行きました。最後の日本語は「梅干しが食べたい。」でした。



田内さんの記念碑と除幕式 高知市

キリスト教番組知っていますか。

50年前にキリスト教には関心があるけど教会には行けなかった私が、イエス様に出会ったのが、深夜に、ラジオから流れてきた賛美歌でした。世の光という番組を聞いて2年間、教会に行くまでの支えになりました。
〈教会員・男〉

毎日好きな時間に聞きたい人にはパソコンのインターネット放送があります。FEBC 検索 でアクセスできます。もちろん無料です。

（夜9時45分からラジオ1566で聞けますが韓国の放送局からですので電波状況があまりよくありません。）

日曜日 朝8時30分から30分番組 テレビ神奈川（3チャンネル） ライフライン よりビジュアルにクリスチャンの生き方を通してイエス様の愛を紹介しています。是非ごらんください。今回紹介した田鶴千恵子さんの紹介番組も予定されています。